

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT
2022.3. VOL.47

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

パロマ瑞穂スタジアム大規模集団接種会場の閉場式にて 名古屋市より感謝状が贈呈されました!

新型コロナウイルスワクチンの接種機会提供のため、名古屋市が令和3年7月1日(木)から10月20日(水)までの112日間に渡って開設したパロマ瑞穂スタジアム大規模集団接種会場の閉場式が10月21日(木)に開催されました。同スタジアムでは、のべ約3,400名の医療従事者により計155,053回のワクチン接種が実施され、本学からも医師・歯科医師・看護師・薬剤師のべ約2,900名を派遣して予診・接種・薬剤管理等の業務に従事しました。こうしたワクチン接種事業への貢献に対し、名古屋市より感謝状が贈呈されました。今後も公立大学として、新型コロナウイルス感染症という名古屋市全体の課題に対して貢献してまいります。

文責：統括企画室



感謝状を手にする中田副市長(左)と
郡理事長(右)

第13回大学の地域貢献度調査 名市大が全国一位

令和3年10月4日発行の日経グローバルにて、「大学の地域貢献度に関する全国調査2021」の結果が発表されました。

本学は総合ランキングにおいて全国1位、東海地域1位(4回連続)、公立大学1位(2回連続)となり、初の全国1位を獲得しました。本調査は全国761大学の国公立大学を対象に実施され、うち514大学から回答があったものです。

「大学の組織・制度」、「学生・住民」、「企業・行政」、「働く場としての大学」、「SDGs・コロナ対応」の5つの分野の得点を合計して順位付けしたものとなり、新型コロナウイルス感染症の大規模ワクチン接種への従事協力や、「名市大ボックス」の出版をはじめとした時勢に対応した新たな取り組みなど、日頃より地域の皆様にご支援いただきながら取り組んできた本学の地域貢献活動が高く評価されました。この結果に満足することなく、今後も大学一丸となり、更なる地域への貢献活動に取り組んでまいります。

文責：大学管理部 学術課

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

教 育

2021年度基礎自主研修 —医学部3年生の研究活動への挑戦—

名古屋市立大学医学部では、卒業時の目標のひとつである「科学者としての医師」の目を養うために、「基礎自主研修」という科目を3年生のカリキュラムに設置しています。

この科目では、基礎医学を中心とした24研究室が設定した最先端のテーマを学生ひとりひとりが選択し、研究(地域枠学校推薦型選抜での入学者は地域医療のミッションに密着した課題)に自主的に取り組みます。テーマによっては、他学部や学外の研究機関・施設等で実施する場合があります。

2021年度は7月にオリエンテーションが行われ、9月から12月にかけて学生は合計63のテーマに取り組みました。研修開始前には、研究不正の防止、実験動物の命に関する倫理、放射性同位元素の取り扱い等の基本的な知識を全員が学びます。その後、研修期間中には他科目の授業は行われず、学生は研究等に集中します。

研究成果は英語による内容要約を作成した上で、11月26日(金)に発表会(写真1)および各テーマのポスター展示(写真2)が行われました。コロナ禍での感染防止対策として、学生は発表時を除きオンライン会議システムを用いて参加し、発表会場には発表者と教員審査員のみが集まりました。そしてポスター発表内容も含めた審査が行われ、4人の優秀賞が選出されました。

課題追究に集中したこの経験をもとに、病気の解明や革新的な予防・診断・治療法の開発に貢献する医師が輩出する将来を期待しています。



写真1



写真2

文責：2021年度基礎自主研修世話人 環境労働衛生学教授 上島 通浩

博士後期課程の学生に経済的支援とキャリア開発プログラムを提供

博士課程の大学院生は、大学の研究力、そして日本の将来を支える重要な存在です。近年、我が国では、大学院在学中の経済的な心配と、大学院修了後の就職への不安等により大学院進学率が低下しており、本学も同様の課題を抱えています。JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」は、これらの解決に取り組む実力・意欲のある大学を選定し、国として支援するものです。

2021年度に名市大の「グローバル未来都市共創に資する次世代研究者エンパワメントプログラム」が採択され、事業を開始しました。本プログラムに参加する大学院生は、研究奨励費(生活費)と研究費の支援を受け、研究力強化に役立つ様々な「コンテンツ」に参加することができます。各々のコンテンツは7研究科の先生方のアイデアが詰まったもので、国内外の大学、企業等にも協力を依頼しており、学位取得後のキャリアにつながる充実した内容となっております。

非常勤職の収入のある方や奨学金を受給している方も対象になります。ご興味のある方は、以下のウェブサイトをご覧の上、積極的にご応募下さい。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/science/research/challenge/>

尚、本プログラムは大学院入学前に学生を選抜し、博士課程4年間を通じて支援を行うものですが、入学後に選抜を行う別のプログラム(医療創薬デザイン人材育成フェロシップ)もあり、こちらは2~4年までの3年間支援を受けることができます。ご不明な点がありましたら、気軽にお尋ね下さい。

文責：医学 病院管理部教育研究課

豊橋技術科学大学との包括連携協定の締結式及び記念シンポジウムを開催

令和3年11月29日(月)に、名古屋市立大学と豊橋技術科学大学の包括連携協定の締結式及び記念シンポジウムを開催しました。本連携協定では、豊橋技術科学大学におけるロボット、センシング、IoT、AIなどの工学分野と本学における医学・薬学など様々な学問分野との連携を進め、互いに補完し合うことで革新的な研究シーズの創出と教育の充実を目指します。まずは両学各4名ずつ、合わせて8名をそれぞれ客員教として相互に迎え入れ、研究・教育の連携推進の中心的な役割を担っていただく予定です。

研究面では、研究の高度化かつ多様化を図るため、本学のコアファシリティの枠組みや豊橋技術科学大学の先端共同研究ラボラトリーを有効活用し、異分野融合の共同研究を推進してまいります。本協定締結時点で、両学から35の共同研究の提案がなされ、研究者間で合意のあったものからすでに共同の研究が始まっています。

協定締結式後に開催されたシンポジウムでは、「医薬・工連携の新たな挑戦」と題し、両学の教員が講演・パネルディスカッションを行い、教職員・市民をはじめ多くの方々に聴講していただきました。今後、両学の専門分野を十分に生かし、地域社会の一層の発展に資するため、教育、研究、社会貢献等に関して連携を推進し、学術及び産業の発展並びに人材の育成に寄与してまいります。

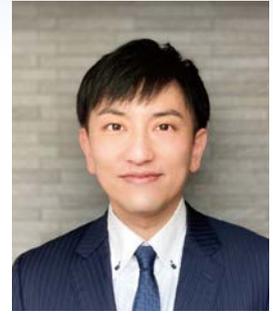


文責：大学管理部 学術課

研究者紹介

加齢・環境皮膚科学 加藤 裕史 准教授

近年の高齢化の進行に伴って皮膚がんの患者さんの数は全国的に増加しており、当院においても特にここ数年著しい増加傾向を認めます。皮膚がんの中でも予後が悪く、進行の早い疾患が「ほくろのがん」といわれる、「メラノーマ」です。ほんの10年前では手術以外の有効な治療選択肢が無かった難治な疾患でしたが、2014年にオブジーボが保険適用になってから多くの治療選択肢が保険的となり、現在では手術に加え、複数の薬物治療、放射線治療、陽子線治療などの様々な選択肢があり、治療は複雑化しております。名市大皮膚科はメラノーマの患者さんが全国的に見ても多く(DPC全国統計データでは全国の医療機関で第4位)、今後さらなる増加が見込まれることから、2022年度には「メラノーマセンター」を開設する予定です。メラノーマセンターは、皮膚科のみでなく、化学療法部、放射線科、陽子線治療センター、病理診断部、形成外科など、複数の医師が協力して、チームとしてメラノーマの患者さんを診療し、事前に臨床写真や病理プレパラートを送付頂ければ受診日1日で治療予定まで立てられるような診療体制を整えることで、より洗練された最先端の医療を迅速に患者さんに提供することができるようになります。センターが開設されましたら複数の方法で情報を皆様へ発信したいと考えております。メラノーマ以外の皮膚がん、皮膚腫瘍、難治性皮膚疾患においても名市大皮膚科は全国トップクラスの医療を提供しております。皮膚疾患の事でお困りな事があれば是非当院へのご紹介をご検討ください。



加藤 裕史 准教授

メラノーマセンター *事前に資料を送付頂くことで、即日の診断、治療方針の説明を行います。



時の人

名古屋市立大学 開学70周年記念コンサートの中心に携わっている方

令和3年11月21日(日)愛知県芸術劇場コンサートホールで、名古屋市立大学開学70周年記念コンサートを開催しました。本コンサートは、開学70周年記念事業のひとつとして、昨年開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期を余儀なくされていたものです。

本コンサート開催のため、オーケストラは名古屋市立大学管弦楽団およびOB管弦楽団から希望者を募り、合唱団は名古屋市立大学教職員の呼びかけにより結成しました。新型コロナウイルス感染症拡大により緊急事態宣言が発令されるなど、集合しての練習がままならない中、各メンバーが一生懸命に練習を重ねました。感染拡大が落ち着いてからは、数少ないながらも集合練習をすることができ、指揮者の熱心な指導で結束を高め、本番を迎えることができました。

本番では、オーケストラと合唱団がプロのソリストとともに、コロナ禍のトンネルを抜け新しい時代の幕開けになると信じて、ベートーヴェン「第九」の演奏を響かせました。新型コロナウイルス感染症対策の上、収容人数を約50%に抑えた開催にはなりましたが、素晴らしい演奏に、オーケストラ、合唱団そして観客が一体となり約900名が感動を分かち合いました。

最後に、学生課の皆様、OBオケの土肥靖明先生、友成毅先生、野村圭一様、合唱団を取りまとめて頂いた中村敦先生にこの場をお借りして深謝いたします。



文責：公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授 / 臨床薬理学 木村 和哲 教授

03 時の人 People in the news

研究者紹介

東部医療センター 感染症科 長谷川 千尋 教授

東部医療センターは第2種感染症指定医療機関であり、また熱帯病治療薬研究班の薬剤使用機関でもあることから、輸入感染症や寄生虫症といった国内稀少感染症を扱っています。私は2009年に消化器内科医として転勤してきましたが、赴任2年目よりこの仕事を引き継ぐこととなりました。無鉤条虫、マラリア、デング熱、シャーガス病など保険診療では十分な診断と治療ができない疾患が多く、日本の、時にはWHOやアフリカの専門家の先生のご協力のもとに診療を行ってきました。

さてCOVID-19も3年目を迎えています。当院は流行の早い時期から受け入れを始めたことから何か発信できないかという思いが常にありました。そして臨床の経験を行政の会議で提示し、各種治療薬の効果や抗体検査の使用について学会に報告をしました。また流行初期から国立医薬品食品研究所と共同研究を行い、いくつかの蛋白やアミノ酸が重症化の予測因子となる可能性が示されました。現在患者数が激増し基本的には中等症以上の患者しか入院できなくなったため、軽症例を含めた本研究は今では貴重な情報となります。さらに西部医療センターと本院を含めた3病院を中心としたワクチン接種後の抗体価の推移に関する研究は、そのデータが厚生労働省のワクチン行政の資料の一つとなっています。

感染症は各診療科だけでなく、基礎や薬学、芸術工学部（ヘルスケアアート）など組織横断的に繋がりを築ける診療科です。ちょっとしたアイデアから何かを得ることができるかもしれません。いつでもお気軽にお声かけください。



長谷川 千尋 教授

研究者紹介

次世代医療開発学分野 間辺 利江 准教授

これまで私はSARSや鳥インフルエンザ等、世界的課題の新興感染症について、国際共同研究を続けてきました。新興感染症パンデミックは10～40年の周期で起こると言われています。2009年新型インフルエンザから10年後の2019年、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生し瞬く間に世界の国々に拡大、スペインかぜ以来の最大規模のパンデミックになりました。これに対峙すべく、私が研究開発代表を務める研究グループは、JST未来社会創造事業「超スマート社会の実現」領域に採択され『感染リスク共存社会を支えるCPSモデルによる意思決定支援基盤の構築』をテーマに研究しています。2021年7月にはCOVID-19について科学的解析に基づく感染情報を発信するスマートフォン向けアプリ（EIDリサーチ・リソースライブラリー）を開発・公開しました。これは空間・時間解析とシミュレーションによる感染の集積地域をマップ上で可視化すると共に、地図上の位置情報の連動とプッシュ通知機能により感染リスクアラートを発信します。更に全国や各都道府県の疫学情報には専門家コメントを交え分かりやすく示します。これらの情報はウェブからも発信されますが、アプリ情報が届きにくい人々（高齢者等）には、地域薬局や地域包括支援センターが拠点となり、情報発信だけでなくCOVID-19の関連課題（間接的な健康被害等）の解決を図っております。現在では疫学、医学・臨床、人文・社会学的指標を用いたAIやシミュレーションによる次世代技術開発に着手し、新興感染症の感染・重症化アルゴリズムや流行予測モデル等を構築しています。将来これらの成果を医療現場や社会へと発信し、平時一有事を通じた新興感染症に頑強な社会の創設を目指します。



間辺 利江 准教授

内視鏡手術支援ロボット (da Vinci) の 東部医療センター・西部医療センターでの使われ方

▶ 東部医療センター・西部医療センターにDa Vinci Xiサージカルシステムが導入されました

東部医療センターでは、これまで腹腔鏡手術を中心とした低侵襲手術を施行し実績を重ねて参りました。今般、高度な手術技術を安全な形で地域へ提供することが喫緊の課題となる中、2021年4月より名古屋市立大学医学部の附属病院としてDa Vinci Xiサージカルシステムが導入されました。2012年に泌尿器科疾患に対する保険適用が始まり現在ではその低侵襲性が評価されて、産婦人科、呼吸器・消化器外科など多くの診療科疾患へと保険が適用されています。東部医療センターでは10月より



低侵襲手術センタースタッフ一同

前立腺がん、12月より直腸がん、2022年1月より子宮筋腫及び胃がんの手術と、順次適応部位を拡大してきました。

また腎がん全般や副腎がん腫瘍などのロボット支援手術が4月より保険適用となり、これまで腹腔鏡で施行していた手術について、ロボット支援によりさらに高度かつ安全な医療を提供することを計画しています。

侵襲性だけではなく、「機能の温存そして改善」がより望まれる時代の中、低侵襲手術センターでは診療科医師だけではなく、麻酔科医、看護師、臨床工学技士で構成されたチーム診療を行っています。多職種が共同し、手術前後にわたり一貫性を持ったケアを行ってまいります。

文責：名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 経営課

▶ 手術支援ロボット「da Vinci ダ・ヴィンチ」が導入されました

名古屋市立大学医学部附属病院西部医療センターに本年8月末にインテュイティブサージカル社の手術支援ロボット (da Vinci Xi) が導入され、準備期間を経たのち、10月より稼働しております。導入により、低侵襲でより繊細な手術を行うことができるようになりました。

機種構成としては、シミュレーター（練習用デモ機）に加え、デュアルコンソール（操作ボックスが2台）を採用しています。一般的にはシングルコンソールの方が多いようですが、当院は大学病院でもあるため、若い医師はもちろんのこと、学生の教育も行っていく必要があります。そのため2人同時に術野を共有できるデュアルコンソールを採用しました。現在は桜山からロボット手術のエキスパートに来てもらい、デュアルコンソールの機能を生かして我々の質の向上にも努めております。

ダ・ヴィンチの運用としては、現在胃、直腸、肺、前立腺における悪性腫瘍手術に用いています。今後さらに適応を拡大してより多くの手術に運用できるよう準備を進めています。

西部医療センターでは、国指定の地域がん診療連携拠点病院として、陽子線治療を含めた各種がん治療が可能であり、ここにロボット手術を加え、さらに高度かつ専門性の高い医療の強化を目指していきます。また同時に質の高い医療人を育成し、患者さんによりよい医療を提供し、地域医療水準の向上ができればと考えております。



文責：名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 経営課

「名市大ブックス」創刊1周年事業 特別市民公開講座

令和3年12月5日(日)に、2020年10月に創刊した名古屋市立大学出版の書籍シリーズ「名市大ブックス」の創刊1周年を記念し、特別市民公開講座を開催しました。午前の部「不治の病は過去のこと!?がん治療の新時代」、午後の部「痛みの正体～見える痛みと見えない痛み～」と題し、名市大ブックスの執筆者である教員・医師らがそれぞれのテーマで講演を行いました。

午前の部では、「がん」をキーワードに6名の先生から食道がんや前立腺がん、乳がんの先進的な治療法や研究結果、また、がんと食生活の中との関わりや手術前の準備など、より具体的で正しい知識をお話いただきました。

午後の部では、「痛み」をキーワードに外科手術による治療や、慢性痛や長引く痛みとの付き合い方などの幅広い観点から講演をいただきました。

「名市大ブックス」の創刊1周年を契機として開催した本講座には、市民の皆様をはじめ、非常に多くの方々に参加いただき、今後の「名市大ブックス」事業の継続に向けて弾みがつきました。

また、当日は、「名市大ブックス」の最新9・10巻の先行販売を行い、多くの方に手に取っていただくことができ、好評のうちに幕を閉じました。



文責：大学管理部 学術課

サイエンスパートナーシップを結んでいる名古屋市科学館のイベント 「ウイルスや細菌が起こす病気を解決する」

2021年11月3日(水・祝)に、名古屋市立大学と名古屋市科学館のサイエンスパートナーシップに基づいた、中高生を対象としたイベント「生命の源としくみを探る」が、科学館で開催されました。

ウイルスや細菌といった病原体は、風邪などのよくある感染症だけでなく、ときに世界を恐怖に陥れる新興感染症(パンデミック)や、がんを引き起こします。研究者を含めた多くの人々の努力によって、多数の病原体が根絶に向かっています。しかしながら、新型コロナウイルスを含めた人類の脅威となる病原体にも、根絶のめどが立たないものがいくつも存在します。がんやウイルスを調べる研究者の視点から、研究の世界に進んだきっかけや、病原体と戦う研究者たちの仕事を紹介しました。

ヒトや病原体の遺伝子を調べる技術はここ10年ほどで飛躍的に進化し、以前なら世界中の研究室が協力しても3年かかったようなヒト1人分の遺伝子解析が、1つの研究室で、数日で完了するようになりました。この技術は多くの患者さんを調べることや、以前なら決して取り組めなかったような稀な病気を調べることを可能にしました。コロナ禍においても、わずか2日で新型ウイルスの全塩基配列を決定するなど、速やかに対策を打ち立てる上で大きな貢献をしていることなどをお話しました。これから大学に入り、様々な学問を学んでいく中高生に、新鮮な科学の情報を提供できたと思います。



文責：ウイルス学 奥野 友介 教授

医学部解剖感謝式

令和3年度の解剖感謝式が10月19日(火)午後2時30分から川澄キャンパスのさくら講堂で開催されました。解剖感謝式は医学と歯学の教育・研究の発展のため自身のお体を系統解剖、病理解剖に提供された方々の御霊を弔い感謝の念を捧げる医学部の主要な催事ですが、2年度はCOVID-19の蔓延を受け中止されました。3年度は十分な感染対策が施され、被解剖者ご遺族、篤志献体団体「不老会」役員、名市大の医学部、看護学部、病院の教職員と系統解剖実習に当たった医学部2年生などの約200名が参列し、厳かに執り行われました。

式では、医学部2年生の野場優佑さんが感謝の言葉を述べ、続いて、被解剖者244柱のご芳名が奉読されました。その後、参列者全員が献花し、高橋智医学部長の御礼の言葉をもって終了しました。

名市大では学生、教職員、医療従事者が、被解剖者の崇高なご遺志を胸に刻み、今後も医学の発展に向け日々精進して参ります。
文責：統合解剖学 教授 植木 孝俊



高大連携/高大接続の取り組み「研究室丸ごと体験」に参加して

私は、夏休みに、脳神経生理学研究室で、一人二匹ずつラットを用いて脳内出血モデルを製作し、脳内出血による運動障害の様子を観察しました。ラットの脳の切片の状態も踏まえ実験の結果を論理的に考察しました。命の重さを感じながら、実際の研究室ではどのように実験が進められているのかを生で見て、聞いて、実験することで、さらに医学への興味・関心を持ち、命への理解を深めることができました。高校生のうちからこのような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。
名古屋市立向陽高等学校国際科学科2年 森島 彩貴

令和3年度医師臨床研修マッチング結果について

10月28日(木)に令和3年度医師臨床研修マッチング結果が発表され、以下の結果となりました。

<名古屋市立大学病院>

プログラム名	定員	マッチ数	マッチ率
プログラム1 (大学病院基盤研修)	5	5	100%
プログラム2 (協力型病院連携研修)	29	29	100%

<関連病院>

病院名	定員	マッチ数	マッチ率
東部医療センター	8	8	100%
西部医療センター	8	8	100%

総定員38名中36名がマッチし、昨年度にひきつづき94.7%という高いマッチング率となりました。

当院では、医学部卒業後も皆さんをバックアップし、必要な能力を身につけるための充実した臨床研修プログラムを用意しています。

また、名古屋を代表する2つの中核医療センター:東部医療センター、西部医療センターとの強い連携によって、大規模な1800床の環境で実践的かつハイレベルな研修が可能です。

さらに、医学部側から見ますと、6年生99名の進路(臨床研修先)概要は、以下のとおりです。

病院名	人数	病院名	人数	病院名	人数
名古屋市立大学病院	8	刈谷豊田総合病院	3	その他愛知県	32
東部医療センター	6	岡崎市民病院	3	岐阜県	4
西部医療センター	5	小牧市民病院	2	三重県	1
豊川市民病院	6	トヨタ記念病院	3	東京都	0
海南病院	3	一宮市立市民病院	5	その他	18

文責：医学・病院管理部教育研究課

ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!に無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は5月号です)

1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地 名古屋市立大学 医学・病院管理部
経営課経営係 広報担当宛 E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌：瑞医(ずい)

発行：〒467-8602

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

TEL (052) 858-7114 FAX (052) 851-4801

URL <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は2022年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

我こそは
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新的话题をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
医学・病院管理部経営課経営係 広報担当まで